



令和7年5月1日現在
世帯数 2,924世帯
男 3,170人
女 3,339人
総人口 6,509人

島立地区町会連合会長

浅井 勇吾
あさい ゆうご



この度、島立地区町会連合会長を仰せつかりまし

た浅井勇吾と申します。

今年度は、島立地区住民意向アンケート調査の結果集約と地区皆様への公表を検討していきたいと思ひます。組織・事業の見直しも提案していきま

島立地区町内公民館長会長
清水 哲郎
しみず てつろう
この度、島立地区町内公民館長会長を仰せつかりました清水哲郎と申します。



荒井町会にある清水正一師範が開設した「滴水館道場」に道場五訓という言葉が掲示してあります。

一、「はい」という素直な心
二、「すみません」という反省の心
三、「私がいします」という奉仕の心
四、「ありがとう」という感謝の心
五、「おかげさま」という謙虚な心

これを全て実行することはなかなかできることではありませんが、常日頃この五訓を噛み締めながら公民館活動を通じて、安心・安全な住みやすい地域づくりを微力ながら今年一年務めさせていただきますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さらに、皆様が参加したいと思ひえるような島立地区の運営を心がけます。それぞれの立場で島立地区を支えていただきますよう、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



松島中学校長

油井 桐子
ゆい かりこ



この4月に松島中学校に着任しました学校長の油井

桐子と申します。

朝、昇降口に立ってあいさつしていると、大変気持ちのよいあいさつを返してくれる生徒が、本校にはたくさんいます。私自身が朝から生徒にたくさん元気とエネルギーをもらっています。

地域の皆様とともに、生徒たちが安心して学び、成長できる環境を作っていきたいと考えております。学校は子どもたちの学びの場であるとともに、地域とともに歩む場でもあります。今後も、地域の皆様と交流を深めながら、開かれた学校づくりを進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

島立中央保育園長

西村 千史
にしむら ちふみ



この度、島立中央保育園の園長として来ました西村

千史と申します。

満開の桜の咲く中、登園してくる子ども達を微笑ましく感じる日々です。お家の方との別れ際に涙していた子も遊びの中で少しずつ笑顔を見せられるようになり、うれしく思ひます。地域の皆様には保育園活動において、たくさんのご支援をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。歴史ある地域の豊かな自然や人とのつながりの温かさを大切にしながら、様々な体験ができる園にしたいと思ひます。子どもも大人も笑顔で元気に過ごせるよう心掛けてまいりますのでご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

島立地区地域づくりセンター長

波多腰 秀美
はたこし ひでみ



この度、島立地区地域づくりセンター長を務めさせ

ていただくことになりました。波多腰秀美と申します。

地域の皆様とのこれからの新しい出会いにわくわくしております。

皆様の要望を把握し、課題解決に向けたきめの細かいお手伝いができるよう取組

季節の写真



ハナコブシ



南栗から見える春の常念岳



キジ

み、「島立地区に住んでいて良かった」と思ひえる地域づくりを目指してまいります。皆様にはお世話になることも多いかと思ひますが、お力添えいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

島立公民館長

ももせ やすゆき
百瀬 也寿之松本市島立
公民館は昭和
24年島立村公
民館として発

足以来、三四半世紀を経過しました。会場整備などの大規模開発により、近世に計画開田されたと推測される、条理的遺構はみられなくなりましたが、多くの貴重な有形無形文化財は各町会の深い想いにより伝え継がれています。

島立地区では、町会連合会、福祉ひろば、各種団体と連携調整をはかり様々な地域課題について、知恵を出し合い創意工夫し、今もシンカ中です。

「ここ一番いいところ、素晴らしいところを知っているのは、ここで生まれ育った君達でなければいけないね。」石井伯亭先生が浅間温泉に疎開をされていた際、写生時のお伴をされた丸山光清館長（昭和53年〜平成元年）は、その言葉が心から離れなかったと著書に残されています。

7年間、地区の社会教育、生涯学習、地域づくりに多大なご尽力をいただいた伊藤館長の後を引き継ぎました。よろしく願いいたします。

島立福祉ひろばコーディネーター

おんだ みよし
恩田 美好

この度、島立福祉ひろばコーディネーターとしてお

世話になることになりました。恩田美好です。4年ぶりにひろば職員として皆様にお会いしましたが、とても温かく迎え入れてくださり、感謝の気持ちでスタートさせていたでいます。ありがとうございます。

久しぶりのひろばは、とても活気があるなあと感じます。先日行われた「ふれあい健康教室・健康スポーツボイス」には40名を超える皆様に参加され、ひろばに入りきれないほどでした。島立の皆様への健康への関心の高さと、仲間同士誘い合って参加されている姿から、仲間同士のつながりの強さを感じました。

そんな活気ある福祉ひろばで、皆様と一緒に学んでいることを楽しみにしています。地域の皆様のつながりの場、学びの場として、気軽に来てください。集いやすい雰囲気づくりに努めます。どうぞよろしく願いいたします。

防災を体験しよう！

3月26日（水）に島

立っ子森・杜探検隊とこども広場のコラボ企画として、防災の学びをしました。

消防士さんのお話を聞き、災害が起きた時は何が一番大切な、命を守るためにどう行動するのか、身近な危険な場所はどこかなどを考え、怪我をした時の被覆法の仕方なども習い体験しました。昼食はアイラップ袋を使って作る炊き出しを行い、電気やガスを使わなくてもご飯を作ることができました。午後はネ

イチャーゲームと防災体験スタンプラリーを行い、災害時に役立つものづくりと五感をきたえる体験ができました。災害時でも創意工夫で自分達でできることを考え、乗り切る力を楽しみながら学ぶ良い機会となりました。

この度も、地域の皆様の多大なるご支援ご協力に感謝申し上げます。



島立小学校入学式

4月4日（金）、島立小学校

で入学式が行われました。今年度は42名の新入生が仲間入りし、少し緊張しながらも期待に胸をふくらませた表情で登校しました。式では校長先生から「毎日皆さんのたくさんの笑顔に出会えることを楽しみにしています」と温かい言葉が贈られ、保護者や教職員、在校生からの拍手に包ま

れていました。

社会福祉法人高綱の里
和敬保育園入園式

令和7年度和敬保育園の入園式が、4月5日（土）に実施されました。新入児さん14名、保護者の皆さん、また3歳以上の園児及び保護者の皆さんと一緒に祝いしました。

毎年のことですが、入園児の年齢も未満児が大半で、お母さんの膝でキョトンとしています。楽しい園生活が送れるまでは、少々時間が必要ですね。式が終わり、各クラスに入って受け持ちの先生



の心を解きほぐしてくれそうです。毎日お外で楽しい遊びを覚え、登園も楽しくなります。この一年は、遊んで遊んで楽しい一年になります。

暖かくなる5月は、緑が子どもたち

ピカピカのランドセルを背負った子どもたちは、これから始まる学校生活への思いをそれぞれに抱きながら、第一歩を踏み出しました。晴れやかな春の日に、新しいスタートを迎えた入学式となりました。



松本市広報R7-11

●問い合わせ 中央公民館

TEL 32-1132 FAX 37-1153

●編集 公民館報編集委員会

●印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行
2025

5/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 73

ようこそ松本へ

松本城は海外からの観光客にも人気
異国の文化に笑顔があふれる

(撮影 2025.4.29 松本城本丸庭園)

住民の力を結集！ 公民館に防災井戸を掘る

自主防災計画により避難時の対策を実施している公民館が多くあります。その中で、生活用水の確保のために、町内公民館として井戸を掘った2つの例を紹介します。

「命の見える化」を目標に 生活用水を整備

～島内地区島高松公民館

近年、転入者の増加により古くからの住人が少数になりつつあります。そこで、町会だよりには住民の顔が見える記事を多く掲載するなど、住民の連帯を深める「命の見える化」を目標に活動を行っています。



住民のための安心と憩いの泉

きました。

そのかいあってか、この度住民有志が井戸を掘り、それを町会へ寄付してくれました。地下30メートルから質の良い水を得ることができました。

井戸には、「松本市災害時協力井戸」として登録された標章が付けられ、「ひろばの泉」として整備されました。

普段はモーターによりくみ上げ、せせらぎに水を流しています。災害時には生活用水として使えるよう発電機を使用してくみ上げます。

次のステップとして、公民館の屋根に太陽光パネルを設置し、電源の確保を計画しています。

災害発生時も住民の よりどころを目指して

～松南地区双葉町公民館

企業が多い双葉町会では、長年「事業所と語る会」で災害時の井戸水の活用が話題となってきました。昨年度の公民館建て替えの際、それを覚えていた町会内の建設業の企



見慣れない手押しポンプに大興奮

業から全面協力を得て、地下30メートルから良質な水を確保しました。古墳時代からの「水の郷」の恩恵でもあります。公民館の庭には、今時珍しい手押しポンプと電動水中ポンプが併設されています。災害時にも発電機でくみ上げできます。

「前庭はまだクローバーが育成中ですが、子どもの遊び場になります。また大人にも井戸のカフェで語らう場となつてほしい」と公民館長は話してくれました。

公民館は、災害時の身を守るよりどころとなります。災害時はむろん、平時においても水を中心として住民の暮らしがより親密になっていく場所となることが期待されます。

わがまち自慢 中山地区

和泉の湧水

和泉町会の高台に、湧水を利用した水場がお目見えしました。落成は昨年の4月末、上和泉常会の有志や中山地区の鈴木公民館長などが中心となって整備されました。



起案から1年で実現!!

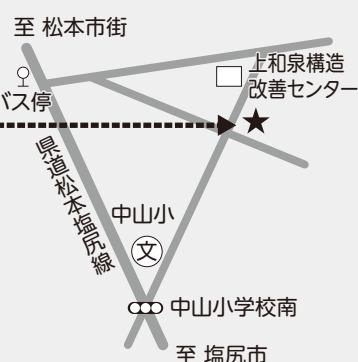
和泉町会は昔から湧水に恵まれ、この水場も四季を通じて一定の水量を保ち、地元の人に親しまれてきました。道路整備によって水場が埋まる計画が持ち上がったこともあり、数メートル移動して使い勝手の良い設備が整えられました。資材は和泉町会や上和泉常

会からの補助でまかないましたが、手荷物置き場や踏み石の設置など、全て有志による手作りで。最近では徐々に認知度も上がり、地区の外から訪れる人も増えています。「水質検査も継続的に行っている。飲用にはもちろん、料理などにも利用してもらいたい」と有志代表の藤森前公民館長は話します。



取材中にも利用者が...

檜ヶ岳や常念岳を望める絶景の高台でひと息つきながら、心地よい水音にしばし耳を傾けてはいかがでしょう。



視点

②1 松本大学 平和創造研究会
平和を学び、
未来へつなげる

若者が学ぶ「平和」

終戦から80年を迎えようとしていきます。戦争を体験した人が少なくなっている中、平和を未来へ伝えていく若者がいます。松本大学の平和創造研究会は、菅谷昭前学長の「若者が平和について学んで発信してほしい」という思いに基づき、現在8人の会員が活動を行っています。

研究会代表の宮坂真由さん(教育学部3年)は「教員になるにあたって、平和について学びたい」と考えて活動し

ています。戦争の被害を受けた長崎や鹿児島などでの研修から体で感じた戦争の怖さを若い世代に伝えていくために、「さらに学びを深めないといけない」と使命感を持っています。



特に印象に残っている
「知覧特攻平和会館」

命と平和を大切に

平和創造研究会の活動のひとつに「いのちと平和の森」の維持があります。この森は

アルプス公園の近くにあり、NPO法人が育てています。人々が生きた証として樹を植え、命と平和の大切さを伝えていきます。研究会の学生は森の草取りやフルートの演奏会を通して、地域の方と交流しています。

自分の言葉で伝える

研究会は昨年、俳優の紺野美沙子さんを招き、「平和朗読会」を行いました。紺野さんによる戦争に関する絵本の朗読に感動し、次は自分たちが伝える番として、小中学生への読み聞かせを行いたいと考えています。

宮坂さんは研究会の活動を通して、「教員になったときに、自分が身をもって学んだ



壮大な樹が育つ
「いのちと平和の森」

ことを自分の言葉で伝えていきたい」と話してくれました。研究会では、沖縄や台湾への平和研修を予定しています。「先人たちから学んだ平和を未来へつなげる」使命を担う平和創造研究会の活動に、今後も注目です。

動画は
こちら

写真でつづる
まつもと今昔⑥8

～田園地帯を特急がゆく～



(撮影：1988.5)

田植えが終わった田園を走る特急あずさ。遠方の東山の姿は変わらないが、2007年3月18日に開業したJR平田駅と跨線橋により、近景は時代とともに変わっている。40年前にここに駅ができるなんて、誰が思っただろうか？あずさは183系から現在はE353系電車で運行されている。



(撮影：2025.4.24)

周りは市街化区域で開発と宅地化が進んでいるが、並行して市街化調整区域の農地が隣りあっている。松本から塩尻に向かう車窓から、目の前で田んぼが眺められる区域はここだけである。

おこひる

娘が里帰り出産をした。上の孫たちも一緒に過ごしたので、家庭が一気ににぎやかになった。孫との毎日は、食事に洗濯、学校

に保育園など久々にあわただしくなった▼少々動きの鈍くなった頭と体をフル回転しているつもりが、間に合わない事も多い。しかし落ち込んでいるひまはない。目の前の孫の相手をしながら手足を動かして続ける。そんな中でも、新生児の泣き声や上の孫のケンカの声さえ愛おしい▼嵐のようないまはあつという間に過ぎ、また静かな生活に戻った。母として頼もしくなった娘と、孫の成長を目の前で感じられたのは、とても幸せな時間でもあった。自分の子育ての時も、母たちにはずいぶん助けってもらった。こうして人はつながっていくのだと思う▼今更ながら母には感謝の思いでいっぱいである。今はこの子たちの未来が争いのない、平和で輝けるものであることを願うばかりである。





中山史跡めぐりマップ
お楽しみください

和泉の名が初めて文書に出てくるのは、文明11(1479)年の「御符札之古書」です。和泉の地名の元は、箱井にある箱井権現の泉が由来になっています。民話の泉小太郎の生誕地は、和泉八幡社の上にある産ケ坂だと伝えられています。

泉小太郎の生誕地

新しい村の発足にあたり、村名について戸長などが協議を重ねました。中山(霊園から弘法山までを含む)の異名「法螺貝山」の近くにある村なので「法螺貝村」ではどうか。ほかに「埴神村」や「神和原村」などさまざまな意見

中山の異名

明治7(1874)年に、埴原村、和泉村、上和泉村、神田村が合併して中山村が誕生しました。

中山は縄文時代から多くの土器や古墳などが発掘され、変わらぬ自然が残されている地

村の中にある山から…

中山地区

再発見!!

まつもと地名がたり

11

がりましたが、「中山村」とすることに一致しました。中山という山名は、村の中にある山という説があります。また、ほら貝を伏せたように見えることから「法螺貝山」とも呼んでいたようです。昭和18(1943)年に神田は、松本市に分離合併し現在の中山地区の形になりました。

埴原の牧

埴原の史跡埴原の牧は、奈良時代以前から置かれ、朝廷

に献上するための馬を飼育していた場所です。平安時代の法典「延喜式」延長5(927)年に掲載されています。牧の範囲は、埴原南の千石から古屋敷、埴原西の尾池と棚峯の東まであり、100ヘクターほどだったようです。



法螺貝山をみる! (岡田から中山を眺め)



松本平の野鳥たち



サンショウクイ (2021年5月松本市中山 写真提供:信州野鳥の会)
ヒヨドリよりやや小型でほっそりした体型。頭から背が黒っぽい灰色で尾は長め。「ヒリリン・ヒリリン」と飛びながらよく鳴く。この鳴き声が「山椒の実の小粒でもピリリと辛い」ということから名付けられたという説が有力。アルプス公園でも代表的な夏鳥。

まつもと散歩

時が満ちて 光あふれて 春はうららか



(撮影: 2025.4.12 開智公園)

2025年3月30日号の記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。今後記事の正確性には、細心の注意を払ってまいります。

6面「まつもと地名がたり」3段目	小見出し	(誤) 梓川対岸にも新村がある	(正) 削除
本文		(誤) 新村が管理している社	(正) 岩岡神社の氏子の皆様が管理している社